

平成27年度  
第3回基本政策審議会資料

政策分野別の現状と課題・長期的な方向性について

③ 子育て・若者

## 現状と課題

### 【国の動向】

- 「少子化社会対策大綱(平成27年3月)」では、待機児童の解消等の子育て支援施策の一層の充実、また、結婚、妊娠・出産、子育ての各段階に応じ、一人一人を支援するなどのきめ細かな少子化対策の推進など、総合的かつ長期的な少子化に対処するための施策の指針が示された。
- 「子ども・若者ビジョン(平成22年7月)」では、障害のある子ども・若者の支援、子どもの貧困問題への対応など、困難を有する子ども・若者やその家族を支援などの子ども・若者等に対する施策の基本的方向について示された。また、「子どもの貧困対策に関する大綱(平成26年8月)」では、全ての子供たちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指し、子供の貧困対策を総合的に推進するとされている。
- 「まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成26年12月)」では、人口減少問題の克服等の中長期展望に基づき、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」という基本目標が掲げられ、本市においても岡山市版総合戦略を策定中である。

### 【少子化、未婚・晩婚化】

- 岡山市における出生数は長期的に減少してきたが、平成21年を底に近年は微増傾向にある。また、合計特殊出生率は平成21年の1.35を底に増加傾向にあり、平成25年で1.48となっている。
  - 岡山市における生涯未婚率は、男性、女性ともに上昇傾向にあり、男性は約20%、女性は約10%となっている。また、平均初婚年齢も上昇傾向にあり、未婚・晩婚化が進行している。
- ⇒結婚、妊娠、出産、子育てを希望する人の望みがかなうように環境づくりを進めていく必要がある。

### 【待機児童、放課後児童】

- 核家族や共働き世帯の増加等により保育ニーズが高まっているが、保育の受け皿が依然として不足している。
  - 岡山市では、毎年のように保育園の創設・増設等により定員を増やしているが、現状はそれを上回るペースで入園希望者が増加し、平成27年4月には待機児童134人発生した。加えて、希望しても入園できない未入園児が804人存在し、その中には自宅や勤務場所から距離が離れた保育園を紹介されたり、兄弟で別々の保育園を紹介されたりしたため、やむなく入園保留となっているケースが含まれる。また、保護者が育児休業を取得した場合は、5歳児クラスを除いて原則退園していただくなど入園の基準が保護者の希望とはかけ離れていたり、機会さえあれば保育園を利用したいと考えている潜在的保育ニーズが約1,900人と推計されたりするなど、まだまだ本市の保育環境の整備には、ハード、ソフト両面から課題が多い。
  - 放課後児童クラブは、受け入れ対象学年が小学校3年生から6年生に拡大し、潜在的ニーズも含め約1,100人分が不足している。
- ⇒安心して子どもを産み、育てられるまちづくりを進めていくためには、各地域の保育ニーズに応じた施設整備や有効活用を図るとともに、保育士等、就学前教育・保育を担う人材確保が喫緊の課題である。併せて、放課後児童クラブの整備の加速化を図り、安定的なサービスの確保に取り組んでいく必要がある。

### 【子育てへの不安や負担感の軽減、ワークライフバランス】

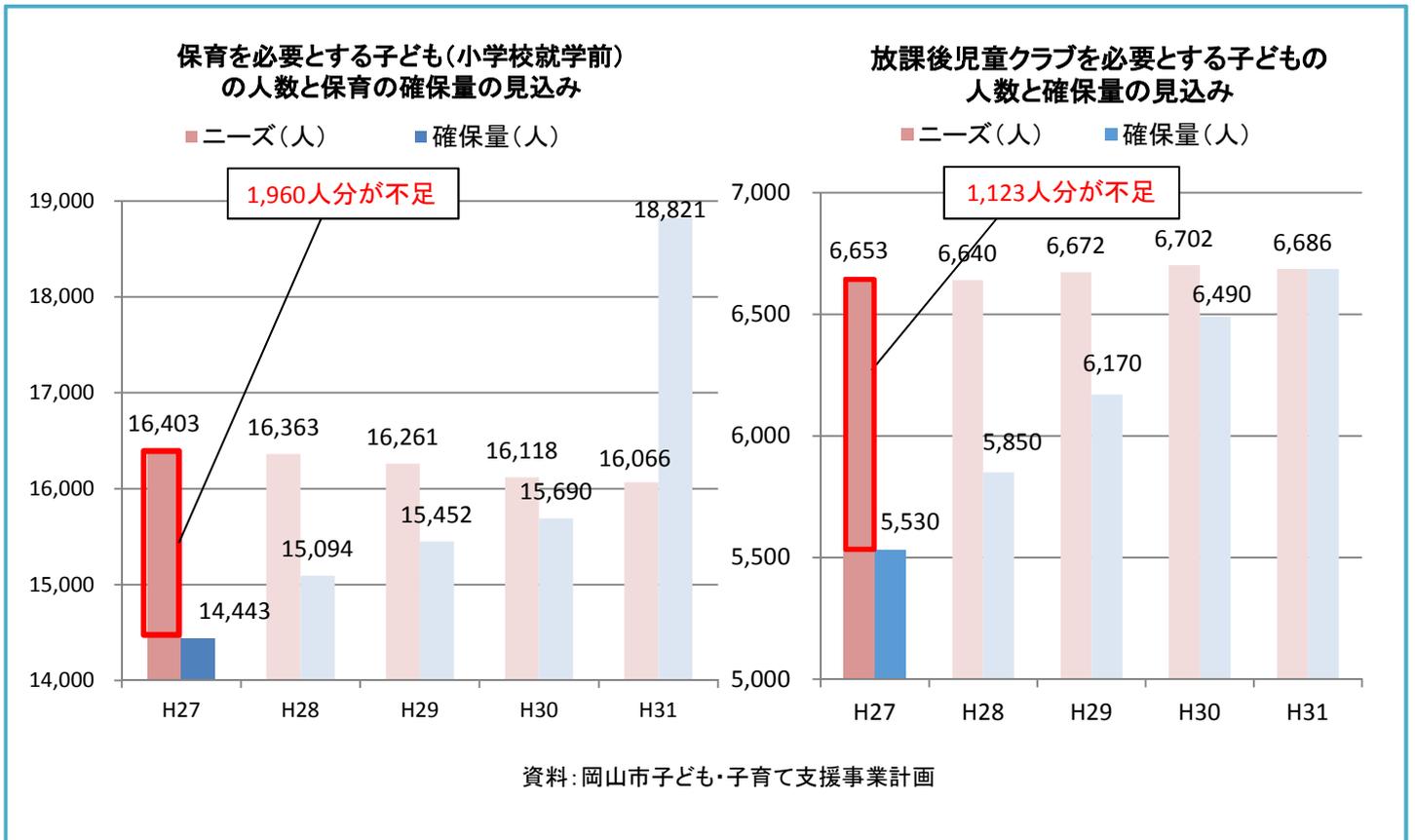
- 岡山市において、女性が結婚時に仕事を辞めたいと思った理由の最多は、「仕事と家庭を両立する自信がなかったから」であり、出産・育児時の最多は、「仕事と子育てを両立する自信がなかったから」「自分の手で子どもを育てたかったから」となっている。
- 岡山市における子どものいる夫婦の共働き率は50.1%であり、男性が育児や家事に携わる時間は、女性に比べて短いものの、理想とする時間と差は大きい。
- ⇒子育てに対する不安や負担感を少なくするために、子育て支援拠点でのサービスや子育てに関する情報提供の充実など、多様なニーズに対応できるよう子育て支援施策の充実を図っていく必要がある。また、地域社会全体で子どもと子育て家庭を支えていく環境づくりを進めていく必要がある。
- ⇒男性の育児参加等の一層の推進やワークライフバランスを推進していく必要がある。

### 【困難を抱える子ども・若者等への支援】

- 少子化の進行、核家族化による子育ての孤立化等で子ども同士の交流の機会が減少したこともあり、社会性の発達等に問題を抱える子どもが増えてきている。
- 全国的に子どもの貧困率が上昇傾向にあり、特にひとり親家庭の相対的貧困率は54.6%と、半数以上に上っている。
- 岡山市における児童虐待の相談件数は、351件(H26年度)となっている。虐待を受けた子どもの保護や自立に向けての支援を充実させていく必要があるが、岡山市では、里親等への委託率が全国に比べて低い状況にある。
- ⇒経済的な理由等により家庭環境などに困難を抱える子どもへの支援や、障害のある子どもの自立と社会参加に向けたきめ細かな支援など、困難を抱える子ども・若者やその家族への支援体制を充実していく必要がある。
- ⇒虐待などの子どもの権利侵害の防止と対応策を充実させる必要がある。特に、虐待を受けた子ども等に対して、家庭的な環境のもとで養育を行う里親等への委託率を高めていくことが課題である。

### 【若者を取り巻く状況】

- 子ども・若者は様々な体験を通じて社会性や自立していく力を養っていく必要があるが、有害情報の氾濫、事故や犯罪など、子ども・若者を取り巻く環境には様々な課題が生じている。また、若者による犯罪が増加しており、岡山市の刑法犯少年の割合は、全国、岡山県と比べて高い状況にある。
- ⇒若者の成長・自立を促す環境の充実を図っていくため、未来のまちの担い手である子ども・若者の社会参加を促していくとともに、若者の抱える問題等への対応、非行防止に向けた取組を進めていく必要がある。



## 政策展開の長期的な考え方

### ①安心して子どもを産み育てられるまちづくり

- 結婚、妊娠、出産、子育てを希望する人の望みをかなえるための環境づくりを総合的に進めていく。特に、積極的な待機児童、放課後児童対策や、ワークライフバランスをめざした取組みを推進し、仕事と家庭の両立がしやすい環境づくりを進める。
- 子育てへの負担や不安を軽減し、喜びを感じながら子どもを産み育てることができるよう、子育てに関する情報提供や子育て支援サービス等を充実するとともに、家庭、地域、企業、NPO等と連携しながら、地域社会全体で子育てを支える環境づくりを進める。

### ②子どもが安全で健やかに成長し、若者の自立を支援するまちづくり

- 子どもが安全で健やかに育つ環境を整備していくため、障害や経済的な事由等により困難を抱える子ども・若者等への支援体制の強化や要支援児童への総合的な対策を充実していく。
- 未来のまちの担い手である子ども・若者の社会参加を促していくとともに、若者の抱える問題等への対応、非行防止に向けた取組等を充実し、若者の成長・自立を促す環境づくりを進める。